

九州兼喜

2025. 1

No. 152

恭賀新年



謹んで新年の
ご祝詞を申し上げます

令和7年 元旦

年頭のご挨拶

九州兼喜会
会長

篠 森 義 晴



明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は皆様方に多大なるご高配を賜り、心より御礼申し上げます。本年も何卒宜しく願い申し上げます。

さて昨年を振り返りますと本当に様々なことがあった一年でした。穏やかな新年を迎え新しい一年に対し期待に胸を膨らませている中、能登半島での地震が発生しました。思いもよらない元旦の地震に、被害に遭われた方々の衝撃と落胆は計り知れず、筆舌に尽くしがたいものがあった事と存じます。心から哀悼の意を表するとともに、被災者の方々に心からお見舞い申し上げます次第であります。一年経った現在においても復興はまだまだ道半ばと伺っております。一日も早い復興を願うと共に、有事に対する危機感を常に持ち、BCPの整備や訓練など、出来得る限りの準備を常日頃からしておかなければならないと強く感じました。

また、翌日の羽田空港における衝突事故も大変な衝撃を受けました。炎に包まれた飛行機をニュースで見て、この一年どうなるものかと大きな不安を感じたことを鮮明に記憶しております。海上保安庁の航空機は被災地に支援物資を届ける任務を遂行中であり、本当にやるせない事故でありました。殉職された方々のご冥福を心よりお祈りいたします。民間機側では全員が無事であったことが不幸中の幸いでした。平時における継続的な教育訓練と有事における乗員の的確かつ冷静な誘導、その上に乗客の規律ある行動とが重なり合ったことが「奇跡の脱出」に繋がったのだと思います。辛く悲しい出来事ではありましたが、これらのことから私達もしっかりと学んで行かなければならないと感じました。

さて、今年は終戦から80年の節目の年であります。平和を望む気持ちは日本人のみならず皆共通ではあるはずですが、大変悲しいことに世界各地で戦争が

続いております。そのような中、国内外で多くの政治体制の変化があり、泥沼化した各地の戦争も終息に向かう可能性が出てきたと報じられております。そうなれば非常に素晴らしい事です。国際情勢や政治が不安定だと必ず経済にも景気にも悪影響が出て参ります。世界が明るく穏やかな方向に進む事を切に願う次第です。

我々建設業界におきましては解決すべき問題が山積しておりますが、その中でも最も深刻な問題が「人」だと思います。安全も品質も担保する根源はやはり人であります。何年も前から「処遇の改善」という言葉はございました。少しでも良くしようと様々な方々がそれぞれの立場で奮闘しております。しかし、昨今の時代の変化のスピードに処遇の改善の速度が追いついていないと感じます。円安が進みインフレが進行しつつある中、これ以上の可処分所得の減少は限界値を超えてしまい、職人離れに拍車がかかってしまいます。「きついけれど稼ぎは良い」というのは紛れもない建設業の魅力の一つであったはずですが、原材料や資材がこれだけ高騰している中、職人の処遇の改善は大変難しい問題であるとは思いますが、待ったなしの状況である事実は変わりません。各事業主が覚悟を持って取り組んでいかなければならない一年になると思います。

今年は巳年です。蛇は守りと繁栄の象徴とされ大変縁起が良いとされております。変化の激しい時代の中、脱皮を繰り返し成長する蛇のように私達も一皮も二皮もむけて、たくましく成長して行かなければなりません。処遇の改善を実現させ、人が集まる魅力的な業界にし、安全も品質も更なる高みへと昇華させるよう不退転の決意で努めて参りましょう。

さて本年5月の全国連合兼喜会の総会は九州・福岡で開催されます。諸般の事情がありまして実に23年ぶりの九州開催であります。久方ぶりの開催ということで皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、真心を込めて準備をいたしておりますので是非ともお越しいただけると幸いです。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

九州兼喜会一同、本年も明るく前向きに一致団結して清水建設様の社業の発展に貢献して参る所存でありますので本年も何卒ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

仕事は多く事故は少なく、このような一年になりますことを心から願いまして新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

清水建設(株) 九州支店
執行役員支店長

湯 原 克 佳



新年あけましておめでとうございます

兼喜会の皆様におかれましては、旧年中は格別のご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。お陰様で、2度目の新年のご挨拶をさせていただくことが叶いました。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

昨年は年明けの能登半島震災に始まり、8月には宮崎日向灘地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されました。自然災害の脅威が年々増加傾向にあることを改めて実感しております。

能登半島震災時には1月1日の元日から企業の枠を超え、組織を越えて建設業が一丸となって復興に向かいました。国難を救い、国民の安心・安全を守るという建設業の社会的使命が私たちの存在意義であり、そのうえで、一つ一つのお客様の建物に確実な品質をつくりこんでいくことが、社会への貢献につながるということを認識しながら、一人一人が自分事として誇りをもって日々の業務で実践し、積み上げていくことが重要であると考えております。

確実な品質を安全につくり込んでいくために、そしてお客様に安全・安心という信頼を提供していくためには適正な工期・コスト下で環境「ものづくりの場」が必要です。

昨年2024年の時間外労働時間規制や建設業法改正など、現場環境の改善に追い風となる建設業界のルールチェンジがありました。これを好機と捉え、お客様に丁寧にご説明し、ご理解を頂きながら確実な「ものづくりの場」の環境を創っていく所存です。

世界経済の情勢や地政学リスク、それによる国内への影響、動向にも注視していく必要があります。社会の潮流が変わると、私たちの受注環境にも大きく影響

を及ぼすことになります。予測困難な環境の中で、常に情報のアンテナをはり、視野、視座を拡げて人との対話を通じて、「安定かつ適正なものづくりの場」を築くために柔軟に判断していかなければならないと思っております。

昨年の九州支店を振り返りますと品質と安全のトラブルに「猛省」がありました。特に安全においては死亡事故が発生してしまいました。お亡くなりになりました作業員の方にご冥福をお祈り申し上げます。死亡事故は、お客様との信頼関係に大きく影響を及ぼすのはもちろんですが、現場で一緒に働く方の尊い命を失うことは絶対に避けなければなりません。何よりも「人命第一」を最優先事項とし現場と支店、そして九州兼喜会の皆様と志を共に協働で現場の安心・安全の実践を進めさせていただきたいと考えております。

「感動」もたくさんありました。一つ一つの竣工の場で、お客様の笑顔、皆様と共に築いてきた一喜一憂の現場物語に共感させて頂いたことは現在、そして未来の財産であります。

そして「大きな感動」は我が九州兼喜会の篠森会長が昨年の秋の叙勲で旭日双光章を受章されたことです。改めてお祝いを申し上げます。篠森会長が日本国民の規範・模範と評価されたことは、今まで積み上げ築いてこられたご功績とご尽力、ご人徳に尽きますが、篠森会長とつながり、これまで当社を支えていただいた九州兼喜会のメンバーの皆様とのご縁に感謝申し上げるとともに、「ものづくりの場」で共に働かせていただきますことに誇りを感じております。

昨年同様、本年も皆様との対話の場、懇親の場を通じて本質、本音の共有をさせていただき課題に向き合い、九州兼喜会の皆様と共に九州と建設業の成長に貢献できれば幸いです。

結びになりますが、九州兼喜会各社様の益々のご隆盛とご繁栄、併せて2025年が皆様方、ご家族にとりまして、素晴らしい一年となり、皆様と笑顔の絶えない一年となりますことを祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第32回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部
(株)サンエーテクノ

秋 永 正 信

九州兼喜会 青年部
大野 ガス 圧 接 (株)

友 田 将 行

令和6年11月21日、清水建設株式会社本社にて清水建設全国連合兼喜会第32回後継者育成研修が開催され、九州兼喜会青年部より2名が参加致しました。

初めに全国連合兼喜会青木茂副会長より開会の言葉があり、全国連合兼喜会中橋会長より後継者育成研修の歴史と目的、経緯についてご説明を頂きました。現在の建設業を取り巻く環境や、担い手不足、労働時間の上限規制等の喫緊の課題に対して、本研修で学ぶことを活用し乗り越える力として欲しい。また、本研修では清水建設様の幹部の方々のお話を直接聞ける貴重な機会となりますので、有意義で実りある研修となりますようにとお言葉を頂戴しました。

1. 清水建設株式会社

建築総本部 購買本部長
山岡 正徳 様による講話

●建設業の現況と課題、対策について

①建設業の現況と課題

過去10年間の建設業の変化を様々な角度から見て把握する。まず、金額面において建設投資額はGDPの増加に伴い10年前に比べて約22兆8千億円増加し45%も上昇している。一方で、今後の見通しとしてはロシア・ウクライナの影響もあり不透明な状況が続いている。また、ゼネコン大手5社の売上高も同様に10年前と比べて44%伸びている。建設投資額その他、主要建設資材価格は2020年末頃より大幅に増加し、公共工事設計労務単価、建築単価についても近年堅調に増加傾向にある状況。

物量面(建築着工床面積、主要建設資材の需要推移等)で遡ったデータを見ると建築着工床面積はここ10年間で約27%減少。主要建設資材(生コン・建設用鋼材・アスファルト合材)の需要も年々減少傾向にある。一方で、建築物1棟当たり(SRC造・RC造・S造のみ)の延床面積は17%増加。その内、延床10,000㎡以上の建築物の1棟あたり延床面積は27%増加している状況。これにより建築工事における全体施工量は相当量減少しているものの、SRC造・RC造・S造における建築物では規模の大型化が進んでいることが分かる。

労務面において現在、建設業に就労している方は

全産業の約7%に及んでいるが、その数は年々減少傾向にある。特に建設技能労働者は減少の一途を辿っている。物量面と併せても建設技能労働者の過不足率の推移を参照すると、全工種において不足しているのが現状である。さらに年代別では60歳以上の建設技能者が全体の約26%と高齢化が進展しており、今後益々担い手不足が加速すると予想される。また建築物の大型化により繁忙状況が解消されず、繁閑の振れ幅が大きくなる。具体的には1件600億(工期40ヶ月)の建築工事よりも、6件100億(工期30ヶ月)の建築現場の方が人手不足や重層下請問題の解消、結果として売上高の安定化につながることになる。

②今後の対策

建設業の現状と課題を踏まえて、今後は若手新規入職者の確保が重要と考えます。そのためには先ずは会社の経営を安定させることが重要であり、安定的な受注の確保を目指さなければならない。安定的な受注を確保するためには業界のつながりや地域の枠を超えたサプライチェーンの構築、全国兼喜会と協力しながら仕事量の平準化を図ることが重要である。

2. 清水建設株式会社

代表取締役副社長 建築総本部長
新村 達也 様による講話

●シミズグループについて

①シミズグループ中期経営計画【2024-2026】

渋沢栄一氏の経営思想である論語と算盤(孔子の教えに従い利潤追求と社会貢献を両立させるための経営思想)を社是とし、「真摯な姿勢と絶えざる革新志向により、社会の期待を超える価値を創造し持続可能な未来づくりに貢献する」ことを経営理念とした長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」に向けた中期経営計画。

②環境認識をふまえた中期経営計画への課題

社内環境としては

- 高い技術力と新たな挑戦で手に入れた実績
- 豊富な実績に基づくお客様からの信頼
- 多様なニーズに応えるプロフェッショナル人財と現場力
- ものづくりを支える国内外のネットワーク

この4つがシミズグループの強みであり、前中期経営計画における新たな収益基盤の確立に向けた先行投資の実施、建設事業における収益力向上・品質の確保と非建設事業の成長といった成果と継続課題を抱えている。外部環境として気候変動による自然災害の増加・激甚化とGXに向けた産業構造の転換等による激しい変化に伴う先行き不透明な時代。また担い手不足の進行と調達リスクの増大、グローバルに多様化するDX/GXニーズ・デジタル社会の到来、M&A活用等による事業領域拡大の流れといった社会課題の複雑化とお客様ニーズの多様化が課題となっている。以上のことから中期経営計画で取り組むべき経営課題は

【戦略実行力の向上を目指した経営基盤強化】

【収益力の向上と技術・品質確保に向けた事業戦略・グローバル展開の着実な実行】

【強みと先行投資成果の活用、多様化するお客様・社会の本質的ニーズの実現】

の3点となる。

③事業戦略(建設事業と建物ライフサイクル事業)

建設事業における技術・品質の追求、収益力向上を目指した取り組みとサステナブルな建設業の実現に向けて、ものづくりの魅力を追求できる生産体制の再構築を図る。まず、生産体制改革と戦略的な人材配置による現場力の向上、ICT・AIを活用した技術開発推進による生産性向上、グループ・サプライチェーン一体のプロジェクト遂行能力向上、最後に4週8閉所+αの適性工期確保である。また新たな収益の柱として建物ライフサイクル事業に取組み、建物のライフサイクル全体を通じた不動産価値向上・長寿命化の実現、DX - Coreなどのデジタル技術に加え環境技術とLEED/WELL認証ノウハウ等を用いた多様なニーズの実現と付加価値の増大を掲げている。

④DX戦略について

「超建設」のマインドセットとデジタル技術により、お客様や社会の本質的ニーズをより深く掘り下げるとともに、既存の事業や組織の枠組みを超えた事業構造(ビジネスプロセス、ビジネスモデル、サービス)、技術・人財・組織のイノベーションを促進し融合を図り、スマートイノベーションカンパニー「時代を先取りする価値を創造し続ける会社」を目指す。具体的には企画段階で屋外気流シミュレーションや天空率算定シミュレーション、大空間空調シミュレーションがあり、施工段階で設計図の整合調整、スマートコントロールセンターによるデジタル管理、3Dプリンター、現場内でのロボットの活用に取り組んでいる。建物の完成後においても運用段階で竣工BIMデータやデジタルツインの活用に取り組む。

⑤建築事業におけるサプライチェーン

現在、働く時間が短くなる中で建設技能労働者の処遇改善が求められる。加えて建設技能労働者の

高齢化と新規入職者が減少傾向にある。そこで、現場においては作業効率性の向上、働き易さ向上、快適性の向上に取り組むことで建設技能労働者の待遇改善を図り、会社においては建設技能労働者の入職支援としてのものづくりの魅力を伝えることが求められている。実際には効率性の向上として工事用エレベータ「SEC-5000RS」(国内最高の垂直搬送能力を備えた工事用エレベータ)を開発・実用化している。また「TawaRemo®:タワリモ(建設RXコンソーシアム活動の一環でICT技術を共同開発・相互利用したタワークレーン遠隔操作システム)」を自社現場に展開したり、スカイライナー・スカイテーブルを用いたアシスト型ロボットの活用をすることで働き易さ向上に取り組んでいる。快適性の向上としては超高層建設現場の中間階に快適休憩スペース「シミズ道の駅【シバウラオアシス】」を設置している。※高層階の一部フロアに仮設ユニットハウスを設置し休憩所や喫煙所、売店などに活用している。入職支援では建設業の魅力を伝える活動として清水コーポレートサイトにて協力会社入職支援活動に取り組んでいる。ここでは豊かな人生を送る職人たちの姿や進化する建設業の今を紹介する【人生+第一サイト】を開設している。その中にはロボットの導入やドローン測量、女性の働きやすさを伝えるけんせつ小町の紹介など幅広い視点で建設業の魅力を伝える活動を行っている。

3. 清水建設株式会社

代表取締役副社長 土木総本部長

池田 謙太郎 様による講話

●シミズ土木の現場について

①土木工事の現況について

土木部門の実際の現場を取り上げて紹介。山岳トンネルにおける熊本県の熊本57号滝室坂トンネル西(中九州横断道路)新設工事は熊本と大分を結ぶ全長2,679メートルの大型工事である。またVRを用いた3D施工シミュレーションを導入した大阪府の梶山トンネル(新名神高速道路)工事を動画にて紹介。シールドトンネルでは大阪府の枚方シールドトンネル工事は掘削外径世界最大の17.68メートルを誇る目玉工事となっている。海外においてはフィリピン・マニラの地下鉄工事やベトナムの橋梁工事等、現在7ヵ国12現場で様々な土木工事に着手している状況である。

②土木部門の挑戦

シミズ土木の技術者数は大手他社と比べて少なく、今後は1,900名体制を目指し新卒者の採用を増加している。現在は、若手技術者及び女性の技術者の割合が増加したことにより、時間外労働の上限規制への対応や現場施工の省人化、生産性向上、施工管理の効率化への挑戦が必須となっている。現場施工の省人化、生産性向上に向けた取り組みとしてはロボット

施工生産システムを導入している。具体的には、山岳トンネルにおける覆工コンクリート自動施工の活用や土工事の自立型建機の開発（ブルドーザの自動化、人体検知停止）、陸上風力発電工事の移動式タワークレーンの開発である。本システムを導入することで今後の熟練技能者不足を補うことができ、危険箇所への立ち入りが減少し安全性も向上するというメリットがある。また、施工管理の効率化への取り組みとしては3眼カメラ配筋検査システム「写らく」を活用している。これは所要時間約7秒で鉄筋径、鉄筋ピッチ、本数、かぶり等を計測し即時に検査帳票を作成。検査結果の遠隔確認が可能となる画期的な配筋検査システムとなっており施工管理の効率化に大きく寄与している。その他、新たな挑戦として小型ロケット打上事業に取り組んでいる。スペースワン社と和歌山県串本町に、契約から打上げまでの「世界最短」と「世界最高頻度」を目標に小型ロケットの打上げを目指している。民間で取り組むのは清水建設が初めてであり、今年12月14日に2号機打上げ予定であり、成功すれば民間日本初の快挙となる。

③兼喜会(協会社)へのお願い

新たな技術で生産性を向上させ、より良い働き方を実現するためには兼喜会の皆さんとともに学び、最新技術を使いこなしていかなければならない。最新技術を生かすも殺すも職長さん・職人さんの経験・工夫・アイデアを是非教えて頂きたい。これからも車の両輪としてともに挑戦していきましょうとお声を頂戴しました。

4. 清水建設株式会社 安全環境本部長

塚田 泰三 様による講話

●清水建設安全衛生管理基本方針について

①社会が企業に求めるもの

建設業を取り巻く様々な問題がある中、社会が企業に求めるものも非常に厳しい時代になっている。社会が企業の物差しとして活用しているものは

- i コンプライアンス
- ii 企業理念
- iii 企業倫理
- iv 企業の社会的責任(CSR)
- v 社会貢献
- vi 顧客第一主義
- vii アカウンタビリティ(説明責任)
- viii ディスクロージャ(情報開示)

の8つである。これを逸脱すると企業のリスクとなる。その中で清水建設では【清水建設は、人命尊重、人間尊重の理念にたち、企業活動のすべての面において働く人の生命と健康を守ることを最優先とし、安全文化を定着させ、安全で快適な職場環境を形成する。】という安全衛生管理基本方針を掲げている。

②令和6年度(9月末)災害原因について

本年度の災害発生状況としては墜落・転落災害が

全体の3割を占めており、その内半数以上が車両からの転落となっている。また、土木工事においては60歳以上の災害が多発しており、体力(バランス能力)の低下によるものと判断される災害が散見される。

③安全意識の維持・向上への取組み

移動型安全道場「甕割号」の活用。甕割号の由来は11世紀後半の中国で活躍した儒学者・政治家・歴史家である司馬光の幼少時代の逸話からきている。【古くて大きな大変貴重な水をためるための甕がありました。その周囲で子供たちが遊んでいると、一人の子供が瓶の中に落ちてしまいました。このままでは落ちた子供は死んでしまいます。このとき、迷うことなく近くにあった大きな石で瓶を割って子供を助けたのが幼少期の司馬光。】つまり、どんなに貴重な物でも人の命には代えられない。命の尊さを教える話から「甕割号」と名付けられています。甕割号には台車衝突、酸欠、はさまれ、落下衝撃、VR脚立転落、梯子とぶら下がり、等様々な危険体感装置が搭載されており、実際に近い体験をすることで、広く安全意識を向上する取組みを行っている。また、ラジオ体操に積極取り組み体力維持を推進。評価テストを用いた作業員の適正配置を周知を行っている。

●研修2日目～温故創新の森 NOVARE～

研修2日目はNOVAREの案内をして頂きました。清水建設様に係る様々な歴史や最先端の技術に取り組んでいる姿を見学、体験しました。

①旧渋沢邸

旧渋沢邸では各部屋に実際に足を踏み入れ、当時の技術や工夫といった貴重なご説明を頂きました。2代目清水喜助の唯一現存する建築作品として、日本の近代住宅史上における貴重な建造物として江東区指定有形文化財に指定されています。外周には火災時のスプリンクラーの消火方法まで拘りを見せており一つ一つ有形文化財の重要性を見て感じ取ることができました。

②清水建設歴史資料館

これまでの日本の建設業の歴史とともに、清水建設様所有の技術・学術資料や文化的価値の高い所蔵品が展示されていました。先人の方々による挑戦の歴史に触れ、建設業の原点を持ちつつ、今後の発展を担っていく必要があると感じました。

③ものづくり至誠塾、NOVARE Hub、技術研究所 潮見ラボ

様々な最新技術の研究を実施し、常に変化し続けるプログラムに対して柔軟に対応してく核となる施設でありました。実際に最新技術を目の当たりにすることで、近未来の日本の可能性を肌で感じることができました。また、施設では研究・開発した技術を実際に現場で実践したり、建設業やものづくりの魅力発信につなげていました。

令和6年11月8日に九州兼喜会青年部秋の研修会が行われました。今年の研修会は、熊本県におきまして九州各支部より青年部員32名が参加しております。今回の研修では、熊本地震での倒壊から清水建設の手で復旧を終えた拝殿・楼門などのある阿蘇神社と(仮称)JCU熊本プロジェクト新棟建設計画の2ヶ所の見学をさせて頂きました。

まず熊本駅に集合し、貸し切りバスでの移動となります。道中、昨今話題のTSMCなどの工場を車窓から眺めながら、約2時間かけて阿蘇神社のほうへ移動しました。

阿蘇神社のほうへ到着すると、はじめに拝殿へ案内していただき、全員で参拝と御祈願をしていただきました。そのあと、代々続く阿蘇家の92代目の当主で宮司の阿蘇惟邑様よりご挨拶を頂戴し、権禰宜の矢田様より阿蘇神社の概要と熊本地震からの復旧の歩みなどをご説明して頂きました。その中で、楼門の復旧には、防弾チョッキにも使用されるアラミド繊維をロッド状に樹脂で固めたものを使用した、新工法であるアラミドロッド継が採用されていることや、倒壊した既存の材料を約72%使用しての保存修理であること、また、100年後に既存材料と新材料の継ぎ手がぴったり合うように計算されて修理されていることなど、たくさんのお話を教えていただきました。そして、熊本地震からの復旧が2024年中に約9年近くの時間をかけて完了すると教えていただき、重要文化財などの復旧にはとても時間がかかるものだと感じさせられました。

次に、バスで熊本空港近くのJCUの現場のほうへ移動しました。現場に到着したあとまず会議室に案内

(株)田山大理石 田山智章



していただき、梶山所長をはじめ、笠木工事長などから現場の概要などを説明していただきました。現場は工場棟と研究所棟があり、建物の使用用途などをわかりやすく教えていただきました。こういった建物が建つのか分かった後に実際に現場のほうを見学させていただきました。見学のほうにも多数職員の方同行していただき、その都度各会員からでる質問にもわかりやすくお答えいただきました。その中で、こちらの現場では、現場打ちPCを用いて梁底型枠の解体の手間を削減したり、ラス型枠を採用されるなど、いろいろな工夫をされていることが分かりました。まだまだ始まったばかりの現場ではありますが、現場の方々におかれましては、ご多忙中にもかかわらず、現場見学のほう快くお受けしていただき、貴重な時間を割いて案内やご説明していただいたことに深く感謝申し上げます。

最後になりますが、今回の研修会が各会員にとってとても有意義なものになったことと、研修会を行うにあたり関係者の方々に多大なるご協力とご理解賜りましたことを、改めて心より感謝申し上げます。



支部の動き

○理事会

と き	8月6日(火) 16:00～
ところ	兼喜会事務所
出席者	調達部より 谷口部長 様 篠森会長他9名

【議 題】

1. 全九州役員会（9月開催）の件
2. NOVARE見学会の件
3. 青年部
4. その他

○理事会

と き	10月8日(火) 11:00～
ところ	兼喜会事務所
出席者	調達部より 谷口部長 様 篠森会長他8名

【議 題】

1. 全国連合兼喜会第3回支部長会議の件
2. 全国連合兼喜会第66回定時総会（九州大会）の件
3. その他

○全九州役員会

と き	9月27日(金) 15:30～
ところ	リーガロイヤルホテル小倉
出席者	篠森会長他13名

【議 題】

1. 令和6年度九州兼喜会、災害防止協議会決算
中間報告の件
2. 西日本地区交流会の件
3. 全九州役員会（12月開催）の件
4. 令和7年九州総会の件
5. 全国連合兼喜会第66回定時総会（九州大会）
の件
6. 青年部
7. その他
8. 各支部の意見

○理事会

と き	9月10日(火) 12:00～
ところ	兼喜会事務所
出席者	調達部より 谷口部長 様 篠森会長他6名

【議 題】

1. 全九州役員会（9月開催）の件
2. 全九州役員会（12月開催）の件
3. NOVARE見学の件
4. 青年部
5. その他

○理事会

と き	11月11日(月) 11:00～
ところ	兼喜会事務所
出席者	調達部より 谷口部長 様 篠森会長他6名

【議 題】

1. 全国連合兼喜会第3回支部長会議報告の件
2. 全九州役員会（12月開催）の件
3. その他

○全九州役員会

と き	12月2日(月) 15:30～
ところ	西鉄グランドホテル
出席者	篠森会長他15名

【議 題】

1. 令和7年九州総会の件
2. 全国連合兼喜会第66回定時総会（九州大会）
の件
3. その他
4. 各支部の意見

○懇親地引綱大会

日 時	7月20日(土) 11:00~
場 所	初音旅館



○NOVARE見学

日 時	10月24日(木) 15:00~
場 所	温故創新の森NOVARE



○後継者育成研修

日 時	11月21日(木)~22(金)
場 所	清水建設(株)本社2階 シミズホール
出席者	秋永氏、友田氏



○青年部秋の研修

日 時	11月8日(金)
場 所	阿蘇神社、JCU熊本工場棟・研究棟現場見学
出席者	調達部より中村様、後藤様 西村委員長他青年部32名



○青年部幹事会

日 時	8月19日(月) 11:00~
場 所	兼喜会事務所
日 時	9月24日(火) 17:30~
場 所	大野城市
日 時	10月21日(月) 12:00~
場 所	兼喜会事務所
日 時	11月25日(月) 12:00~
場 所	兼喜会事務所
日 時	12月10日(火) 16:00~
場 所	兼喜会事務所

○西日本地区青年部交流会

日 時	8月23日(金) 13:30~
場 所	広島市豪雨災害伝承館
出席者	九州調達部より中村様 鶴崎部長他6名

○青年部支部長会議

日 時	11月7日(木) 19:00~
場 所	熊本市内
出席者	調達部より中村様、後藤様 西村委員長他青年部14名

○全国連合兼喜会第66回定時総会 九州大会実行委員会

日 時	9月5日(木) 11:00~
場 所	兼喜会事務所
出席者	調達部より谷口部長様、中村様 日高実行副委員長他9名
日 時	10月22日(火) 16:00~
場 所	兼喜会事務所
出席者	調達部より谷口部長様、中村様 篠森実行委員長他10名

○西日本地区交流会

日 時	10月4日(金) 18:00~
場 所	京都府

会員の動向

会員名変更

○安藤工事(株) (防水) R6.10.1変更
旧会員名: 永堀 直宏→新会員名: 小嶺 和義

退 会

○(株)吉住工業 (研・解体)
吉住 孝 R6.12.6

叙勲・国家褒章受賞

受賞おめでとうございます

○旭日双光章
(株)清進工業
篠森 義晴 様



発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社
TEL 092-591-5110